

英語教育 明日への翼

STEP

7・8 2005

英語情報

The Latest on English

スペシャルインタビュー

パッコロパッコロの Make the World Our Stage!

特集 学校の先生が予備校通い?

代々木ゼミナール 学校教員向け 研修の実態

Basic力向上道場

公立中学の
陸上部を13回の
日本一に導いた
原田隆史氏
が語る



「目標を書いて心を鍛える
人材育成法公開!」



特別記事

スピーキング力向上間違いなし!

弾丸インプット活用法

現代英語教育は進化か退化か?

福沢諭吉時代の英語教育

余剰時間活用で「英語好き」を育てる!

リスニング・リーディング活動 効果的実践例

Get Ready	2
Bulletin Board	3
英検情報	
special interview	6
バックンマックンの Make the World Our Stage!	
特集	10
大手予備校代々木ゼミナールが行う 学校教員向け研修の実態	
・学校教員向け研修会のコンセプト・内容とは! ~代々木ゼミナール教員研修センター鍋島史一副部長に聞く~	
・教員向け研修担当講師 富田一彦先生の授業を見てみたい! 英語教師 Mr.T の潜入レポート	
・代々木ゼミナール カリスマ英語講師 富田一彦先生が語る授業哲学 ~富田流~ 効果的な授業のための5か条	
私と英語と英検と	18
枝廣淳子 西川雅子	
特別寄稿	20
弾丸インプット活用法	春日部市立大沼中学校 教諭 川村光一
教えて住職! 英語教師駆け込み寺	24
「心が決め手の this&that」	慶應義塾大学 教授 大津由紀雄
テストで伸ばす英語力 静流 英語授業道 テスト編	28
「力をつける小テスト」	関西大学外国語教育研究機構 助教授 静 哲人
英語教師の Basic 力向上道場	32
目標を書いて心を鍛える人材育成法公開	天理大学 非常勤講師 原田隆史
インストラクター松崎の英語力養成ジム	36
実感保証 90 日スピーキング訓練法	アメリカンハウス主宰 松崎 博
Mr.松浦の学校訪問	40
音読から英語の世界を拓く! ~大阪府立長野高等学校の巻	広島大学 助教授 松浦伸和
特別寄稿	44
福沢諭吉時代の英語教育	拓殖大学 教授 茂住寛男
How About This?	46
Say What You Mean, Mean What You Say	(財)日本ラーニングラボラトリー教育センター主任外国人講師 Joseph Hernandez
英語教師オビニオン・コロシウム	48
「英語教員の環境整備と研修」「大学入試問題」	福岡県北九州市明治学園中学校 教諭 井ノ森高詩
「今の日本に必要な教育のあり方」「生徒につけさせるべき本当の英語力」	東京都 S・R
特別寄稿	52
余剰時間の活用で「英語好き」を育てる!	高知西高等学校 教諭 谷 富貴
わか地域英語教育の取り組み	54
三重県編	三重県教育委員会 研修分野 研修主事 谷口勝彦
目標規準準拠テストの理論と実践	56
目標規準準拠テストと問題作成の手順	明海大学 教授 和田 稔
発掘! 英語トリビアの水たまり	60
WORDS IN FOCUS — SHOULDER	61
	リセ・ケネディ辞書研究所 教授 堀内克明
Information Board	62

Junko
Edahiro

私と英語と英検と

Masako
Nishikawa

枝廣
淳子

(えだひろ
じゅんこ)

英語の勉強は やればやるほど面白い!

私の英検体験は、“入口+出口”みたいなものよ、とよく言います。中学2年生の時に4級を取り、次が30才過ぎてからの1級合格だったからです。

同時通訳者・翻訳者として仕事をするようになって10年になりますが、もともと英語、特に「聞く・話す」は、大の苦手でした。本格的に勉強を始めたのは、夫の留学で2年間米国に行くことになった29歳のときです。せっかく米国に行くのだから英語を勉強しよう、どうせやるなら一番高い目標にしよう、同時通訳ができるようになろう、と決めたのです。

普通だったら、「まず日常会話を勉強して、そのうち簡単な通訳ができるようになるかも」と、現状からスタートして考えるかもしれませんが。ところが私は、現状はどうであれ、まずなりたい姿を先に決

めて、そこから今を振り返って間を埋めていく「バックキャスト」をしたのでした。

目標を「同時通訳」に決めたあと、何ができれば実現できるのかを考えました。単純ですが、1)英語を聞いて意味がわかる、2)その意味を日本語で言える、3)それが同時にできれば同時通訳ができる!と考えたのです。

では、1)の「聞こえてきた英語の意味がわかる」ためには、何ができればいいのかな?と考えていきます。まず目標を定めて、「何ができればいいのか?」と次々考えていくのです。そうすると、自分で取り組めるトレーニング・プログラムまで落としこんでいけます。いろいろなトレーニングをメニューとして組み合わせ、自分の時間割を作りました。2年間を3か月ごとの「学期」にして、PDCサイクル(Plan-Do-Check:計画し、やってみて、振り返り、次の計画に活かす)

"All the News
That's Fit to Print"

西川
雅子

(にしかわ
まさこ)

地道に基本を。 できることから。 英検を上手に利用して。

さして英語ができるわけでもない、ほんやりした女学生だった私が「言語のおもしろさ」に目覚めたのは、大学進学後でした。今で言うダブルスクーリングで大学と英語専門学校を卒業後、1982年にロータリー財団奨学生として渡米、その後結婚しベルギー Antwerpen の Stedelijke Technische Leergangen voor Beambtenでオランダ語を、Turnhoutの Technische Handel-sleergangen van de Landelijke Bediendecentraleでフランス語を学びました。家事育児に追われつつ、'89年に日本に移住、PTA活動などの傍ら、乞われるまま翻訳を始め、次第に案件が舞い込むようになりま

した。現在は、通訳・翻訳(日英蘭)兼翻訳チェッカー(独仏)、英語講師をしています。通訳は会議・交渉・講演会・ガイドなど実際に人と接する以外に、報道・情報・エンターテインメント関係の映像の分野でも仕事が増えました。刻々と変化する世界情勢に迅速に対応するため、急遽テレビ局に呼び出されるようなこともあります。翻訳のジャンルは多岐に渡ります。その他、夫(ベルギーのフランダース地方・蘭語圏出身)の事業のパートナーでもあり、その関連で、近日訪日予定のベルギー皇太子フィリップ殿下の通訳を務めるお話をいただきました。また最近、再び大学院で、英語教授法および応用言語学を学び始めました。年子の大学生と高校生の息子がおり、次男は2か月間の米国留学から帰国したところです。

英検2級は高校時代に取得しました。

で進めました。

語学の勉強は、数日、数週間では終わりません。語学の勉強で一番難しいのは、進捗が見えにくいところです。熱い思いだけで駆け抜けるには長い期間、どうやって自分を「あやして、なだめて、励まして」進めていくか——セルフコーチングが鍵だと実感しました。

(この2年間の具体的なトレーニング・プログラムや「自分マネジメント」の工夫は『朝2時起きで、なんでもできる!』(サンマーク出版)に書きました。「単語を忘れないプログラム」もサンマーク出版のウェブ(<http://www.sunmark.co.jp/>)から読者へ無料プレゼントしていますので、お役に立ちそうでしたら、どうぞ!)

このような経験から、「もっとラクに勉強できるのに」「もっと現場で使える力を身につける方法があるのに」と思うようになり、私が代表を務める有限会社イーズに英語のコースを作りました。

ひとつは、「英語の勉強を通じて自分マネジメントシステムを身につけるための6か月コース」。参加者それぞれがビジョンを描き、計画を作り、計画に沿って進めながら、毎月振り返りを行います。こうして自分の設定した「6か月後の自分の英語レベル」に近づくと同時に、やりたいことに向かってラクに効率的・効果的に進んでいく「自分マネジメントシステム」を身につけます。

もうひとつは、「買ってもらえる翻訳」が身につくスキルアップ通信講座「Next Stage」です。「そこそこの翻訳はできるけど、もっとうまくなりたい」という中級向けの和訳力を鍛える通信講座です。送られてきた課題を訳して送り返し、赤ペンの添削を受け取ってオシマイではなく、プロの翻訳者が勝負をかける「練り直し」のプロセスをトレーニングします。いくら初訳の練習を積み重ねても、練り直すプロセスなしには上達しないからで

す。同時に、仕事量を見積もり、スケジュールを割り振り、実行し、そして振り返る……という自分マネジメントの力も身につけます。多くの受講者がNext Stepをめざして切磋琢磨を始めています。

英語の勉強はやればやるほど面白いですね! 発見したことや工夫して役に立ったことを多くの方に伝えて役立ててもらいながら、自分自身も進んでいきたいと思っています。

(コースその他の詳細については、有限会社イーズのウェブをごらんください。<http://www.es-inc.jp/index.html>)

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。現在、環境関係の国際会議・講演会・セミナー等での通訳、出版翻訳およびビジネス翻訳の他、環境ジャーナリストとして、執筆・講演活動などを行っている。2005年4月より、東京大学人工物工学研究センター客員助教。



その後年月を経て日本に帰国、子育ての負担が減るにつれて様々な語学試験に挑戦し始めましたが、「原点」である英検に戻り、1級を取得したのはつい数年前です。準備の時間は殆どなかったのですが、傾向と対策を知るため問題集を1冊、短期間に集中して仕上げました。あとはニュースなど、CNNを中心に英語で見ました。(余談ながら欧州では、ケーブルTVで各国放送局が多数入ったので、その時々興味のある言語でニュースを見ていました。)話す方は英語でなくとも自分の考えをきちんとまとめて話すよう意識しましたが、英語では、よりlinearな思考に基づいて話すよう心がけています。

若い頃効果的だったのは、NHK教育テレビの英語講座、音楽、映画鑑賞です。映画は字幕に頼らず、情報を耳から入れることに集中しました。歌もビートルズ

をはじめ、様々な英語の歌詞を聴きました。単語の丸暗記は苦手でしたが、一つ一つを適切なcontextの中で理解し身につけるという方法は性に合っていたようです。大学での文法や音声学の授業、専門学校での発音・スピーチの訓練は、アメリカでも通用しました。(よって、留学したから英語がうまくなるというものではないと私は考えています。それ以前の基本が問題。)地道に基礎を固め、毎日少しでも意識的に英語に触れる、これに尽きると思います。その上での応用編(映画、読書、文通など)が楽しめればさらによいでしょう。英語はその後の外国語学習の大きな足がかりになりました。そして私のような遅いスタート、ゆっくりした歩みでも、基本を着実に積み重ねていけば、必ず成果が得られます。語学は若いうちと言いますが、年とともにわかってくること(特にrealiaの面)

も多いのです。最後に、以前読んで感銘を受けた國弘正雄先生のお話を。「文法にこだわるから話せないのではない。文法の訓練が足りないから話せないのだ。(中略)はっきり言おう。さか立ちだって練習を要する。苦勞せずに自然に英語がうまくなるはずがない。これをものにしてやろう、という意欲と、能力と、努力の量。それらが合わさってはじめて成果が表れる。自分以外のものを頼るのをやめなさい。刻苦勉強を死語にしてはいけない。」

同志社女子大学英文学科・バルモア学院卒業。南コネティカット州立大学院留学。ベルギーSTLBオランダ語科・THLB仏語科卒業。Antwerp International School非常勤講師。現在テンプル大学ジャパン修士課程。大学生と高校生の母。





THE
SOCIETY FOR
TESTING
ENGLISH
PROFICIENCY,
INC.

 財団法人日本英語検定協会

東京都新宿区横寺町55 〒162-8055 ☎東京03(3266)6555

<http://www.eiken.or.jp/>

STEP英語情報 2005年7月5日発行 奇数月5日発行 第8巻4号 通巻97号 2007年12月10日第三種郵便物認可 財団法人 日本英語検定協会 〒162-8055 東京都新宿区横寺町55

定価5000円(税・送料込)